

○八重のドクダミ (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: Polypetaloid form of *Houttuynia cordata* Thunb.

以前に八重のドクダミの花を材料としてドクダミの花序と花の解析を行った(植物学雑誌 91: 68, 1978)。最近国外でもこの花を研究したいという人がでてきているので、正式の名をつけておくことにする。包葉が大きくなって花卉の様に見えるので、普通の八重咲品とは異なっているが、一般的には八重の概念に入るものと思う。包葉が大きくなり白色の花弁状になるだけでなく、花のできる位置に小花序が発達したり、葉を持つ枝がでてきたりする個体もある。小石川植物園にはかなり古くからあったものであるが、その由来はわからない。中島庸三氏が仙台で1920年代に栽培していたという、八重のドクダミの写真を、採集と飼育(24巻6号, 1962)にのせておられるので、それと関連があるのかもしれない。

*Houttuynia cordata* Thunb. form. **polypetaloides** Yamazaki, form. nov.

Bractae omnes petaloideae.

Habit. Koishikawa Bot. Gard. cult. (T. Yamazaki, June 30, 1986, Typus, TI).

Nom. Jap. Yaedokudami.

(東京大学 理学部附属植物園)

□森村謙一(訳): ウィルフリッド・ブランド, 植物図譜の歴史 (Blunt, W.: The art of botanical illustration) 344+13 pp. 1986. 八坂書房, 東京. ¥9,800. 訳書には副題として「芸術と科学の出会い」と書かれている。原書は信頼できる代表的な植物図譜史で、多くの専門家の協力を得てまとめたものである。はじめに「編集者まえがき」とあるのは、英国自然誌研究のためのシリーズ本「ニュー・ナチュラリスト」の一冊として本書が出版されたことを示す。英国中心の書とはいえ、そのみでなく広く世界の植物図譜史であることは編集者のいうとおりである。ただし、東洋、特に日本の植物図譜について簡単なのはやむをえない。これも日本からみれば、欠如した西欧植物図譜史の知識を十分にみたくくれるのでありがたい。また、W.H. Fitch の「植物画入門」の記事(1869)は植物図を画く人には今もよい参考となろう。図譜史では引用の図は多いのがよいので、原書の60図に対し、訳書では補充して150図とし、カラー図版46枚を65枚としている。さらにカラー図は原書からでなく、そのもとの図から新たに八坂書房によって撮影しなおされ、図も大きくなって格段の美しさになっており、原書以上に図を楽しめる。本書が、植物図に力を入れてきた八坂書房の創業15周年を記念して刊行されたこともうなずける。

(木村陽二郎)